

令和7年度 日本体育大学同窓会 東北地区協議会 報告書

- ◆ 期 日 令和7年10月25日(土)
- ◆ 会 場 岩手県盛岡市「ホテルニューカーリーナ」
- ◆ 参加者

大学関係者：松浪健四郎 理事長、今村裕 常務理事
石井隆憲 学長、高田佳朗 同窓会長
山本貴代志 校友課長心得
大久保瞳 校友課・同窓会担当
大須賀雅美 法人事務局総務課



宮城県 遠藤健三(会長・本部副会長)、市川敬行(副会長)
岩山悦朗(事務局)

福島県 羽根田ひとみ(会長)、石田和範(事務局長)、清野美加(女子部)

山形県 石澤照夫(会長)、長谷川良和(事務局)、鈴木渉(企業人代表)
渡部千鶴子(女子部代表)、東條文子(女子部)

秋田県 黒田清志(会長)、大山史子(女子部代表)、今野敏行(事務局長)

青森県 澤田晴美(会長)、佐藤雅幸(企業人代表)、田代美紀子(女子部代表)
廣谷滋(事務局長)

岩手県 及川勝義(会長)、鈴木清次郎(企業人代表)、平賀玲子(女子部代表)
榊原世士(事務局長)、田村忠(副会長)、小原信(副会長)
菅原雅之(監事)、高柳純彦(監事)、泉澤毅(事務局次長)
小笠原陽(事務局)、田代満里子(女子部)、西野紀子(女子部)
佐々木春枝(女子部)、佐藤仁果(女子部)

◆ 協議会 I

1 各県同窓会長会

(1) 宮城県会長から、令和7年9月23日に開催された日体大同窓会第2回役員会で決議された内容を報告。

- ・新たな入学者選抜(指定校推薦：地域教員養成方式)において、合格した学生に支援金を支給する。
- ・令和8年度に正教員として学校に就職が決定し卒業生(既卒を含む)で各支部に登録した卒業生に支援金を支給する。
- ・令和8年度より都道府県同窓会の運営補助費として、入学者数に応じて補助金を支給する。

(2) 日本体育大学同窓会東北協議会の各県参加者について

- ・宮城県会長から、次年度開催県は宮城県であるが、物価高騰、インバウンドの影響を受けて宿泊費、会議室使用料等の各県徴収金を3,000円程度値上げせざるを得ない状況であるとの報告。



- ・各県会長より、各支部の運営費が年々厳しくなっていることを踏まえ、会長、事務局長がこの会議に出席し、県の総会で事後報告することも検討してはどうかとの意見が出された。

(3) 協議内容

①各県の同窓会の現状と課題について

秋田県では、県内を中央、県南、県北の3支部に分けて活動している。従来は中央支部のみで総会を開催していたが、参加者が集まらないため、3支部でローテーション開催とし、今年度で一巡した。総会では、大学から講師を招いて入試制度に関する研修を行い、地区副会長が担当している。どの支部でも参加者は50名であり、秋田県の例を参考に開催時期を検討し、活性化を図っていく。

②教育実習生に対する特別講師巡回指導について

- ・宮城県：昨年15人の実習生を巡回指導したが、採用試験を受けた学生がいなかった。
- ・青森県：スムーズに実施している。
- ・秋田県：2人の指導員でスムーズに実施している。
- ・山形県：4年前から大学に任せているが、学校側としては、快く思っていない可能性がある。
- ・福島県：巡回指導を担当する人材がいらない。
- ・岩手県：大学に任せている。

※巡回指導担当者の定年が70歳であるが、定年延長により5年間しか担当できず、人材が不足している。東北地区の要望として、時代にそぐわないため定年の引き上げを求めたい。

③各県の採用試験の合格状況について

- ・宮城県・山形県：令和8年度中・高保健体育の合格者はいない。
- ・福島県・岩手県：状況は把握していない。
- ・青森県：養護教諭で1名採用。
- ・秋田県：中・高保健体育は合格が困難なため、小学校受験にシフトしている。小学校で3年勤務し、中学校へ異動を希望する方法がある。

2 事務局長会

(1) 各県における同窓会組織活性化の取組について

- ・【岩手県】あまり積極的に活動が行えていない状況で、2年連続で学生の学習会も未実施である。会員の高齢化が課題で、64～74歳が全体の約半数で74歳以上が約1/3を占めている状態である。毎年11月の第1土曜日に県の総会・懇親会を開催している。
- ・【青森県】県内各地域で行われている懇親会に、会長と事務局で参加し交流を通して活性化を図っている。またホームページを開設し情報発信に努めている。会員は約600名いるはずだが、住所不明者が多く現状は200名での活動となっている。
- ・【秋田県】規約が定められており、規約に則り各地区部会長などの役員を決めていたが、組織化を図っているが、青森県と同様で帰県しても実家に戻らないため住所不明となる人が多く活性化が図られていない。
- ・【宮城県】昨年度報告したが、名簿は作成せずLINEグループで繋がっている。県役員

が名刺サイズのカードに二次元コードを印刷し、常に携帯し同窓とわかった際に登録を依頼している。現在 100 名程度が参加している。その LINE を活用し、事務局より母校の活躍状況なども含めて積極的に情報発信している。その他の活動として、教育実習の指導、総会・懇親会、仙台市で行われる大学女子駅伝の応援、保護者会への参加などの活動を行っている。

- ・【山形県】県事務局長の本務の仕事が多忙なため、補佐役を配置したが、その人も多忙で事務局体制がやや希薄な状態になっている現状である。県内には 5 つの支部があり、その内 2 つで LINE を活用して連絡等を行っている。今後、その活用が広まって行くことが予想される。県事務局では Facebook を開設し、母校と連携し情報発信しており、企業情報などもある。研修関係の活動が停滞しており、総会と併せて行うのが望ましいと感じている。
- ・【福島県】県内に 5 つの支部がある。東日本大震災の原発事故の影響により活動停止していた地区支部がやっと再開し始めたものの、役員はいるが活動をしていない支部もある。会長が個人的に LINE グループを組んでいる。今年度、教育実習を 18 名受け入れ、その 3/4 が教員採用試験を受験してくれたものの、その指導に対応する方の人材が不足している状況がある。

(2) 各県の役員の任期や地区ローテーション、同窓会費の額について

- ・【岩手県】任期は 2 年、会費は年 3,000 円。
- ・【青森県】任期は 3 年、会費は年 1,000 円。
- ・【秋田県】任期は 3 年、会費は 60 歳以上 2,000 円、その他 3,000 円。
- ・【宮城県】任期は特に定めておらずやれる人がやる、会費は懇親会時に懇親会費プラス 1,000 円を徴収。
- ・【山形県】任期は定めておらず若返りを図っている、会費は 2,000 円。
- ・【福島県】会費は支部では集めているが、県では集めていない。

(3) その他

- ・教育実習生の指導について、①指導する方の人材がいないこと、②教員を志望する学生がいないこと、の両面の課題があると認識している。
- ・学生の状況については、大学から教えてもらわないと把握できないし、実習指導や企業面接指導で学生と関わらないと繋がっていけない。
- ・指導者の人材不足について、指導員の対象が 60～70 歳となっているが、今は実質 65 歳まで働いているため任期が短い現状があるので、社会状況に合わせて規定を見直してほしいと考えている。
- ・近年、教員以外を志望する学生が増えてきている。教育実習に来て、実習の段階で企業の内定をもらっている現状であり、免許取得のためだけの実習となっている。県同窓会として、就職相談会などに組み込んで行きたいと思うが、大学でどのような指導を行っているのか情報提供してもらいたい。早い段階から関わっていくことが組織の活性化にも繋がっていくと思われる。
- ・同窓会本部から現在各県の同窓会名簿の提出を求められているが、LINE 等を活用していて名簿を作成していない場合は、その旨を連絡すれば提出しなくても良いことを確認。

3 企業人会

- ・ 地方ではなかなか企業と生徒の結びつきはできない。自分の企業がスポーツに関連していない。
- ・ 青森⇒年末就職セミナー、教員対策セミナーを開催しているが時期が悪いのなかなか人が集まらない。
- ・ 山形⇒なかなか広がりがないので若い人を集めにくい。
- ・ 宮城⇒誰が戻ってどうなったかわからないのでアプローチできない。個人情報問題があるかもしれないが、ざっくりとした情報でもいいから卒業生の情報が欲しい。LINEグループ（100名ほど）を作って情報を共有している。
- ・ 自分たちの企業をあっせんというよりは、昔ほど教員になる人より企業の進む卒業生が多いので、同窓会は教員じゃないと出れないと思っている人もいるので、企業人会では、同窓会の集まりに参加できるように呼びかけが大事だと思う。

4 女子部会

規約により今年開催は岩手県、司会は青森県で進行

「女子部会の組織作りについて」と「各県の実態報告」をあわせて報告していただく。

・【秋田県】資料持参

県の総会の前に女子の会を開催している。地区ごとに分けてローテーションしながら開催している。今回は、卒業生切替さん（千葉から移住）の講演をいただいた。またサプライズで千葉吟子先生に登場していただき大いに盛り上がった。



・【青森県】資料持参

6つの地区ごとに分けて代表と委員がいる。6月開催だが今年は中止。会員が少ない地区は他の地区と合同で開催する等工夫している。会場が遠距離であることももあり仕事がある人は休日でも集まりにくい。

・【岩手県】

11月の県の総会前に女子の会を開催している。お茶菓子等持ち寄ってお茶会のような雰囲気で開催しているが、年々参加者が減り去年は役員だけの参加になってしまった。県の総会の案内と一緒に女子の会の案内通知を出しているが、若い会員が会議、総会にも出ないのが現状。現職のうちは余裕がなく出る機会も少ないので、会員の縁故関係者に声をかけて参加を求めている。

・【福島県】

5つの地区で活動している。大学卒業者対象に道しるべとなる方がいて就職の世話をしてくださっている。以前は6～7月に会食の機会があったがコロナ以降はなくなってしまった。要職にある方が率先して集まりを持っていたが次第に減少してきた。女子部会の活動は特にないが、今回の女子部の講演会で話を聞いたのは嬉しい。

・【山形県】

女子の会の活動は特になく、集まる場合はほぼ一本釣りとなっている。ソフトボールのつながりは毎年8月に大学の合宿があるので集まる。

今年は中山町に集団行動の合宿がきて、練習見学はできたが集まることはなかった。役員のソフトボール、剣道関係のつながりくらいしかネットワークがないが、一部ではライングループでつながっている会員もいる。

・【青森県】

イベントに遠方から何時間もかけて集まるのは実際大変である。

現役（現職）は忙しいし、下の年代には声をかけにくい。組織のなかの女子部としての活動には無理がある。何年卒という括りなしに集まればいい。

（以下大学側も含めて雑談形式）

- ・集まる目的は何か。若い人たちは何を求めているか。今日のメダリストの講演会等魅力のある活動がしたい。
- ・以前はクラブや県人会等縦の組織があったが今はない。
- ・今の時代、他大学と比較して同窓会の活発な活動があること自体素晴らしい。
- ・同窓会に勧誘する以前に、卒業する段階で必然的に同窓会に入るような流れにしたい。
- ・教員採用試験に合格した卒業生が同窓会に来ていない。
- ・採用試験に向けての対策、講習会等準備しても対象者が集まらない。
- ・郵送料がかかるので、会費未納の会員には同窓会のお知らせを郵送していないが、今後はどうなるかが心配。連絡不要という人もいる。
- ・来てよかったと思える会にしたい。

◆ 協議会 II

1 開会

2 開催県同窓会長 歓迎のあいさつ 及川 勝義

3 来賓紹介及び挨拶 本部同窓会会長 高田 佳朗 様 及び 大学関係者(自己紹介)

- ・学生を対象としての企業説明会について
- ・同窓会の支援事業についての報告について
- ・同窓会、保護者会への支援金について
- ・各支部での活動

4 協議＜議長：遠藤 健三 東北同窓会会長＞

（宮城県同窓会長）

（1） 各県同窓会からの活動状況説明

（各県持参資料の説明）

- ・総会・事業等の実施状況説明
- ・同窓会への加入、会費納入等について
- ・同窓会の加入でライン等活用について
- ・支部の活用について
- ・若い世代の加入について

（2） 協議会 I 報告

①会長部会 ②事務局長部会 ③企業人部会 ④女子部会

※協議会 I 各部会報告参照



質疑応答

- ・同窓会への若年層の加入が難しい状況
→企業人は同窓会で繋がりを持つことでのメリットが見えてこないと加入は難しい。
- ・高田会長より
企業人のつながりや支部を知らない。県人会の復活。HP を使いながら登録の仕方をき
っかけに事務局一覧、目に触れるような形で、卒業生の情報を提供すること。

5 閉会

◆ 協議会 III

1 開会

2 大学関係者紹介

3 来賓あいさつ・講和・報告・説明

(1) (学) 日本体育大学 理事長 松浪健四郎 様

- ・本学は、今から134年前の1891年に創立された歴史ある大学であることは皆様ご承知のとおりである。私たちは、どのような時代を迎えても歴史と伝統を継承していかなければならない。先人が立派に築き上げたものを、さらに発展させていく責任がある。
- ・今年の4月1日より、私立学校法が改正された。背景には、私立大学において大きな問題が発生したことがあり、大学のガバナンス強化が求められている。これにより、理事会と評議員会を分離し、評議員会には、理事長を選考する権限が与えられることとなった。評議員会には身内が2人以上入れないなど、細かい規定も設けられている。現在、私立大学には不祥事未然防止が強く求められており、国からの補助金（いわゆる血税）を受けている以上、健全な組織運営が不可欠である。少子化が進む中、経営・運営の厳しさも増しており、的確な判断力を持つ組織であることが求められている。今回の法改正により、寄付行為の内容も変わった。
- ・理事長および常務理事は、大学および附属高校校の経営に責任を持ち、精神誠意をもって母校の発展に尽くしていく。国から私立学校に対して支出される予算は、年間約4,000億（±20億）であり、そのうち私立高等学校には、1,000億円が配分され、残りの3,000億円が私立大学・短期大学に分配される。これは政権が変わっても大きな変動はない。
- ・私立大学協会には400校が加盟しており、国からの補助金が固定されているため、不足分は、卒業生や保護者の皆様からの寄付金で賄っている。本学では寄付金に対して控除が適用されるので、同窓生の皆様にご協力いただければ幸いである。
- ・現在、スポーツは多様化し、私たちの生活に深く浸透している。このような時代において、日本ウエイトリフティング協会会長・砂岡良治氏、日本陸上連盟会長・有森裕子氏、日本バレーボール協会会長・河合俊一氏などが活躍しており、アスリートとしては、バレーボール男子日本代表・高橋藍選手、大相撲の横綱・豊昇龍(日体柏高校出身)、大の里関など、本学の卒業生が各分野で存在感を発揮している。
- ・本学のキャンパスには1泊1,000円で宿泊可能なゲストハウスがある。各県でツ



アーを企画し、近代的な設備を備えた深沢・健志台キャンパスをご覧いただければと思う。

- ・全国には支援学校が1,200校あるが、そのうち私立は、15校のみである。その中で、大学法人が運営する支援学校は、北海道網走市にある日本体育大学附属高等支援学校1校のみである。学校は、全寮制で、「スポーツ」「労作」「情操」の3つの教育を柱とした、私立としては最大の知的支援学校である。開校から10年が経過し、ようやく定員を満たすようになった。
- ・本学では2年前から支援学校の免許の取得が可能となり、多くの卒業生が支援学校の教員として活躍している。
- ・令和7年度において、本学卒業生の全国中学校保健体育採用者数は第10位、高校学校では第2位となっており、学生たちが大いに努力している。
- ・最後に、大学の運営・経営にあたっては、魅力的な「オンリーワン」の大学を目指すことを約束し、各県の同窓会が皆様の力によってさらに発展することを祈念して、挨拶とさせていただきます。

(2)(学)日本体育大学 常務理事 今村裕 様

- ・9月24日、日本私立協会の秋季総会が仙台市で開催された。協会には456大学が加盟しているが、今回の参加大学は、245校であった。大学の経営の厳しさは理解しているが、私立大学協会自体の存続が危ぶまれる状況である。おかげさまで、本学の経営は順調に推移しており、健志台キャンパスに100億円規模の建物が借入れなしで完成した。
- ・本学では、高等学校4校と高等支援学校1校を運営しているが、少子化の急速な進行により、大学以上に高校の経営が厳しくなっている。そのような状況下においても、



最も歴史のある日本体育大学荏原高等学校では、令和7年度卒業生は、定員320名に対して450名が在籍している。課題としては、校舎の老朽化に伴う新築工事が挙げられる。近年、附属高校のレベルが向上し、本学への進学者数も増加している。令和8年度には、400名の入学が見込まれる。

- ・本学の大学入試は、指定校推薦および総合型選抜・AO入試による入学が主であり、年明けの一般入試での合格は困難な状況である。今後の入試制度については、同窓会および各支部からの要望を反映した制度の推進を図っていく。
- ・本学は、これまで教育、スポーツ分野を中心とした教員を多数輩出してきたが、今後は大学院で学ぶ学生を増やし、研究者の育成にも力を入れていきたい。現在、大学院には175名が在籍しているが、最大500名まで増やすことを目指している。本学の図書館には、他大学にはない貴重な研究資料が所蔵されており、それらを有効活用するための組織および施設の整備が急務である。現在、私立大学は、大学院における研究の質的充実と推進が求められている。本学は、将来的には1万人規模の大学を目指している。教職員が一致団結し、さらなる発展を遂げていくので、皆様のご支援をお願いしたい。

(3) 日本体育大学 学長 石井隆憲 様

- ・日体大は、現在 5 学部 9 学科、3 研究科で運営している。全国の 571 法人のうち、半数以上は経営が危ない状況にあるが、本学は健全な運営となっている。
- ・少子化により、60%が定員割れ。また学生の大学選択の仕方が変化してきている。さらに 2035 年以降は少子化が急激に進み、現在の大学の半分は消滅することが想定されている。文部科学省は大学の構造転換を求めてきている。
- ・これからは A I と D X の時代であるものの、「身体知のラストフロンティア（身体を動かす経験値）」は、A I では理解できない世界であり、日体大の最大のアドバンテージである。
- ・大リーグ、N B A、オリンピック、世界陸上などのスポーツ産業など、スポーツ資源の需要は近年拡大してきている。それに伴い、各大学も 2023 年立教大学、2027 年中央大学や富士大学などが「体育スポーツ科学」の学科の新設を予定している。
- ・人と体育スポーツとの関わり方もデータサイエンスによる分析や、バイオ技術による食環境やエネルギー活用など、変化してきている。
- ・今までは、体育スポーツ自体を学んできたが、これからは体育スポーツで学ぶ時代であり、体育スポーツは学びのツールとなってきた。また体育スポーツは人材育成のツールとしても活用されてきている。
- ・日体大の根幹（核）は、あらゆる競技種目で最高の成績（トップレベル）にあることであり、日本を代表するアスリートを育成することである。その一方で、近年はそれ以外を求める学生も現れてきている。
- ・目指す戦略として、研究組織として機関の充実を図っていくことで、ガチのスポーツ学生だけでなく、ゆるふわ系の学生も獲得することを目指していく。また、企業へのセールスを行い、教員だけを養成している大学ではないことをアピールしていく方針である。企業は、体育会系出身の学生を求めている。
- ・大学の活動 P R のため、日体大ファンアプリを立ち上げたので、登録活用願いたい。



(4) 日本体育大学 校友課課長心得 山本貴代志 様

- ・入試の募集人員に対する充足状況について、全体に対する実質倍率は 1.45 となっているが、本学の現在の入試制度は総合型選抜、学校推薦選抜、一般選抜となっており、800 名の入学定員に対して一般選抜は 20 名となっている。年内入試が主流となっており、年内にほぼ決まっている。一般選抜だけの倍率では 6～10 倍、場所によっては 20 倍となっている。来年度もこのような状況が考えられ、近くの高校生に伝えていただき、なるべく早い段階で入試を受けられる体制を取っていただきたい。
- ・今年度の出願者状況は、前年度の 106%で好調をキープしている。
- ・現在の高校生がどうやって大学を決めているのかを調べると、学校の先生の勧めであったり、親の勧めであったりというのが顕著な結果として出ているので、O B の皆様には、今後も日体大の良さを広く伝えたい。
- ・オープンキャンパスも好調で、昨年過去最高の 11,321 名の参加者を記録した。今年度においても、既に 1 万人を越えている。高校生が大学を決める手立ての 1 つとしてオ

ーブンキャンパスがあり、最後に背中を押すのもオープンキャンパスであるという結果となっており、ぜひ多くの皆さんに見ていただけるような環境を整えていきたい。

- ・昨年度からの入試の変更点について、大きなところでは「学校推薦型選抜」に指定校における地域教員養成方式を新設した。その他には、保健医療学部にて基礎学力方式、体育学にて総合型選抜学部別選抜方式と実技方式の併願、スポーツ文化学部にて総合型選抜学部別方式1期で小論文から面接のみに変更、スポーツマネジメント学部にて総合型選抜学部別方式1期で小論文からショートプレゼンへ変更などがある。
- ・現在令和9年度に向けて800人という入学生をどのように配分していくか検討しており、学校推薦型選抜の入試枠を総合型選抜に移行を検討している。入試制度は日進月歩でいろいろ変わってきているので、不明な点はお問い合わせいただきたい。
- ・就職状況については、活動は大学3年生からスタートするが早期化が叫ばれており、インターシップなども早めに行っている。日体大の就職率は97.9%で全国平均値並である。本学の特徴として、教員志望の学生が多いが近年の教員採用数減があり、6割が企業、2割が教員という分布になっている。企業への就職業種としてはサービス業が多くなっており、全てがスポーツ関連企業ではないがスポーツで学んだことを活用していく状況となっている。
- ・中学高校の教員免許を取得して教員になった令和5年度卒業生の人数は、日本大学が1位で274人であるが、2位が本学で179人である。日大は各教科を含んでおり、日体大は保健体育のみであり非常に多くの教員を養成していることは間違いない。教員になりたいという人へのサービスを踏まえながら、企業にもしっかりとサービスをしていくキャリア形成を図っているところである。
- ・その他、本学で現在取り組んでいることとして「NITTAI Club」というのが立ち上がっている。主に中学校になるが、地域スポーツ養成事業の外部指導者やコーディネーター養成等を行っている。詳しくは「NITTAI Club」へ問い合わせいただきたいが、日体大の卒業生は指導者としての知識や資格を持っている方が多いので、自分の空いている時間を利用して、中学生を指導することができるプラットフォームを作っていきたいと考えている。それには同窓会の協力が不可欠であるので今後も「NITTAI Club」へ注目いただきたい。



4 質疑応答

- ・特になし

5 次期開催県同窓会長あいさつ

- ・宮城県同窓会長 遠藤健三 氏

6 閉会

◆ 懇親会

